

研究結果報告書

当研究は韓国における被爆者の現在の地位、即ち日本での原爆被爆者という資格が取得できるようになったことに注目して、日本での‘ヒバクシャ’という範疇がどのような 法律的・科学的(生物学的)・市民権的境界の次元でつくられたかを検討した。特に日本の原爆被爆者政策での‘被爆者’という範疇の形成における原爆被害に関する科学研究と政治、官僚制との相互作用に関心をもって考察した。原爆投下以後被爆者に対する科学研究の展開でどのような科学的判断が被爆者の地位認定や補償に関連したのか、その過程で被爆者認定の範囲はどのように変化したのかなどである。また体内放射線量を測定する生命工学的な手段のための科学的な研究と行政手続きとの連携が不十分であるために、被爆者の地位認定過程で‘証人’と‘証明書’、‘記憶’が非常に重要な要素になった過程を明らかにした。そして在韓原爆被爆者たちが日本政府を相手に‘ヒバクシャ’の資格を認めるように要求する過程を被爆者援護政策の施策の限界という点から検討した。このために当研究者は在韓原爆被爆者の組職の結成過程とその変化、運動の歴史、日本の韓国人原爆被害者サポート団体との連携などのような複数の領域での調査を並行して進めた。最後にこのような複雑な構造と条件の中で構成された被爆者援護政策において原爆被爆者自身にとって‘ヒバクシャ’になるということが何を意味するかを韓国の被爆者らの生涯史からも考察した。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

1. 「被爆者の境界をつくる科学と政治」 吳殷政 (単独発表)

韓国科学技術学会 2012年度後期学術大会 (2012年12月1日、延世大学(ソウル))

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

1. 『被爆者の範疇の境界の設定における科学、政治、官僚制の相互作用』 吳殷政

ソウル大学 人類学課 博士学位論文 (2013年8月予定)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)